

1 「毎月1点検運動」 ～みんなで減災対策～

毎月1点検運動 12月テーマ『電気等ライフライン』

平成26年12月の大雪により、県西部の山間地域では長期間の停電が発生しました。

電気や水、ガスなどの燃料の途絶に備えましょう。家庭では、懐中電灯や乾電池、カセットコンロなどの準備、風呂の残り湯の貯めおきも有効です。事業所では、自家発電機の整備など必要な対策に取り組みましょう。



「ライフラインの途絶」を想像してみよう！

「オール電化」「プロパンガス利用」「都市ガス利用」「太陽光発電」など、自宅の状況と、熊本地震や東日本大震災のライフライン復旧実績を比べ、我が家のワークポイントを考えましょう。

熊本地震

ライフライン復旧率

- ・電気 1週間
- ・水道 1週間で大きく改善
→ その後は緩やかに改善
- ・都市ガス 2週間でほとんどが復旧しました。

東日本大震災

- ・電気 当日：11%→1日後：52%
→3日後：79%→1週間後：96%
- ・水道 3日後：50%→1週間後：66%
→2週間後：88%→3週間後：99%
- ・都市ガス 当日：0%→1週間後：9%→2週間後：13%
→3週間後：42%→5週間後：99%

とくしま災時記（12月編）

- 2014(平26)年 12/5～6 県西部の大雪(集落孤立864戸)
- 1988(昭63)年 12/15～16 宍喰・海南町の山火事(60ha)
- 1946(昭21)年 12/21 昭和南海地震 M8.0
- 1605年 12/16 慶長地震(東海・東南海・南海地震) M7.9

「いざというときに困らないため、今から備えよう！」

○ 経験者が語る「災害の時に欲しかった物」

停電への備え

- 懐中電灯・乾電池・ランタン・ラジオ
※ヘッドライトは、両手が使えて便利です。
- 充電器(手巻き式・太陽電池)
- 自動車用の電源アダプター
- 携帯電話の予備バッテリー
※携帯電話は、常に充電をしておく。
※携帯電話に登録している連絡先は、手帳などにメモしておきましょう。



断水への備え

- 飲料水 ※備蓄の目安
1人・1日・3ℓ×3日分=9ℓ
(できれば7日分)
- 給水タンク(ポリタンク)、バケツ
※場所をとらない「給水袋」も市販されています。
- 簡易トイレ、ボディシート、水のいらないシャンプー
- くみ置き水
※風呂の残り湯は、断水時には、初期消火や、トイレを流したり、清掃などに活用できます。



電気・ガスが止まった時の熱源確保

- 石油ストーブ・灯油・使い捨てカイロ
- 簡易コンロ・ガスボンベ
- ライター・マッチ



一般的な「ガス」には、地震が発生した場合、自動的にガスを止める安全装置が付いています。安全装置の復帰方法は、事前に、ガス会社に聞くなどして知っておきましょう。

注意

電気ストーブ・電気こたつ・アイロン等を使用中のまま停電した場合、転倒してスイッチが入った場合などは、電力が復旧した際に、「通電火災」と呼ばれる火事につながる場合があります。



- ◆ 避難の際には、家のブレーカーを切りましょう。
- ◆ 地震の揺れを感知し、自動的にブレーカーを落とす「感震ブレーカー」を設置しましょう。